

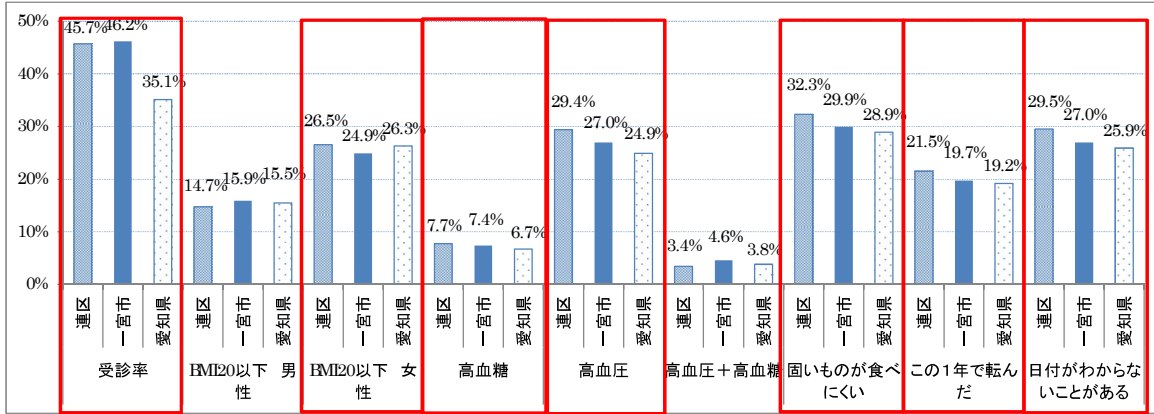
富士連区の情報

⑦連区の人口構成 R6.4.1

総人口： 9,368 人（男性 4,518人、女性 4,850人）
 世帯数： 4,394
 高齢化率： 26.0 %（市内高齢化率が高い順で23連区中14番目）

⑧一宮市後期高齢者医療制度 健康診査（令和5年度）

被保険者人数 市 61,344 人 連区 1,369 人



「BMI 20以下」、「固いものが食べにくい」、「この1年で転んだ」、「日にちがわからないことがある」の4点はフレイル（虚弱）に関する質問項目になります。 …改善したいもの 資料：KDBシステム

⑨地域活動（地域包括支援センター「ちあき」や社会福祉協議会の活動より）

・富士連区ふれあいカフェサロン<富士公民館>奇数月第3水曜日9：30～
 誰もが自由に来て自由に帰っていける気軽な集いの場です。
 こだわりの水で淹れたこだわりの珈琲が自慢です。創作活動もとても人気です。



・花岡町カフェサロン<花岡町公民館> 毎週水曜日 13：30～



花岡町カフェサロンは町内会の方の集まりで、とてもアットホームな雰囲気です。
 週に1度顔を合わせて、脳トレプリントやレクリエーション、歌、ビンゴ等を
 楽しんでいます。

・圏域別地域ケア会議 兼 民生児童委員・ケアマネジャー研修・交流
 民生児童委員やサロン代表者に「いちのみや元気塾」を説明しました。
 元気塾を利用してできることを大切にしながら、地域にある身近な集いの場
 (サロン等)を利用し、介護予防を行うことを話し合いました。



⑩データから見る地域の特徴と健康の課題

《市全体のこと》

●平均的に要介護2以上の期間は、男性で1.6年、女性で3.1年。この期間を短くすると、自分のことが自分でできる期間が長くなる。
 今後の、健康増進、介護予防の取り組みでこの年数を減らすことが望まれる。

《連区のこと》

●健診受診率は市と比べると低い。後期高齢者の健診は、フレイル健診とも言われ、知らない間に進むカラダの変化のチェックができる。
 生活の中の工夫で、病気や介護を遠ざけることもできるから、1年に1回利用しよう。

かかりつけ医を持ち、病気だけでなく、カラダの変化も相談しよう。
 これから何がしたい？今後の人生に楽しい時間が増えるかもしれません♪



●健診結果から「高血糖」や「高血圧」が市より多い。自覚症状がないから、病院で診てもらわなければならない。

BMI 20以下の「低栄養」の割合は、女性が市より多い。知らない間に痩せていることもあるので、要注意！

●質問票の結果から「固いものが食べにくい」人の割合や、「この1年で転んだ」人の割合、「日付がわからないことがある」人の割合が多い。
フレイル予防の知識の普及と予防の取り組みを進める必要がある。

◆地域活動について

低栄養の人やお口の機能が気になる人、転倒予防や認知症予防を勧めたい人が多く、フレイルに注意したい人が多そうだが、
 市民の方が主体的に交流の場を設け活動していることが、フレイル予防に良い活動となっている。

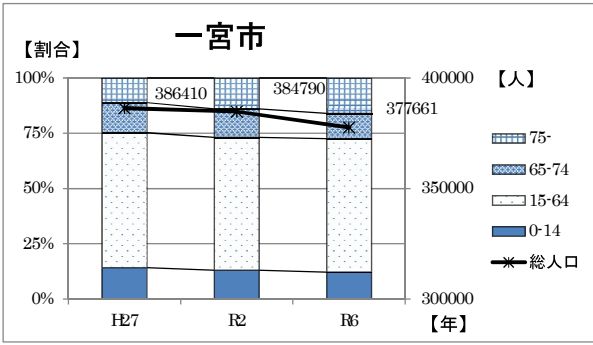
フレイル予防は、運動、食事、人との交流がキーポイント。
 連区の活動は、フレイル予防に繋がっているね！



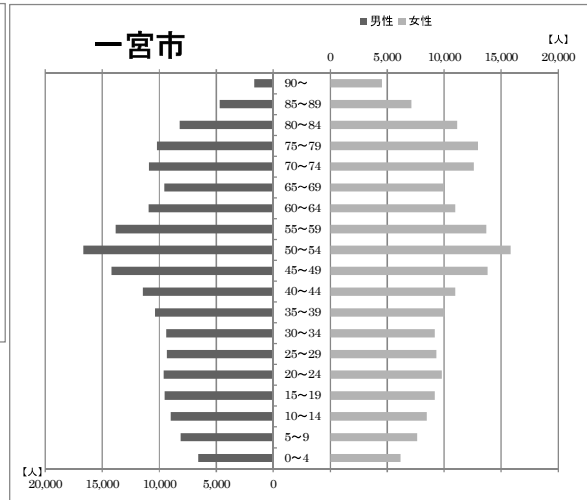
一宮市の情報

一宮市の情報

①人口推移(各年4月1日)



②男女別年齢階級別人口(令和6年4月1日)

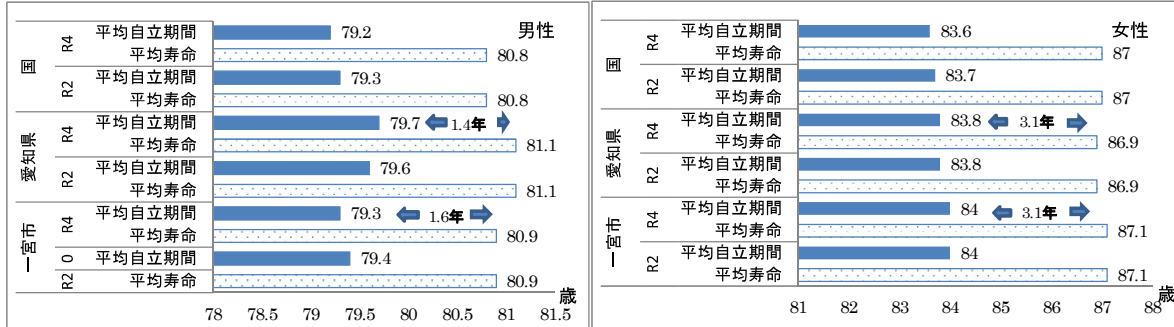


③人口構成(令和6年4月1日 住民基本台帳)

総人口: 377,661 人(男性 184,259人、女性 193,402人)
 世帯数: 168,204
 高齢化率: 27.4% (参考: R6国29.3%、R6愛知県25.8%)
 要介護認定率: 17.5% (令和5年9月末 第9期高齢者福祉計画)

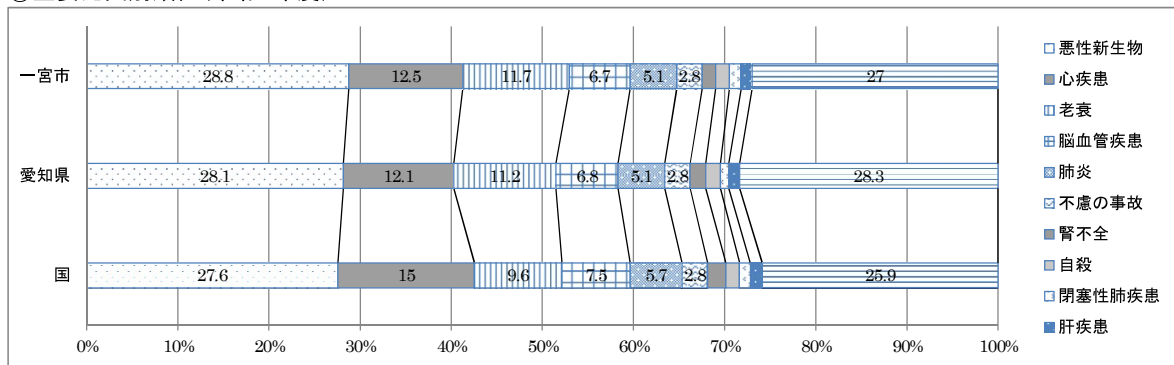
④平均自立期間(市町村レベルの健康寿命の指標)

平均自立期間とは、日常生活動作が自立している期間の平均年数を示す。要介護2以上を不健康状態と定義して、平均余命から不健康期間を除いたもので算出します。参考として、平均寿命を掲載しているが、単純に比較できるものではない。



平均寿命は、男女とも、令和2、4年は同じ。愛知県よりも男性は1.8年短く、女性は、0.2年長い。平均自立期間と平均寿命の差が、平均的な不健康期間となります。男性は約1.6年、女性は3.1年で男性は、愛知県よりも0.2年長く、女性は同等でした。

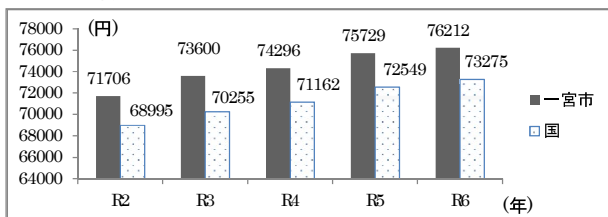
⑤主要死因別順位(令和2年度)



資料:健康日本21いちのみや計画

⑥後期高齢者医療保険制度 医療費データ

一人当たり医療費(一宮市)



死因の上位を悪性新生物、心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病が占めている。生活習慣病は、予防対策があるもから、かかりつけ医や保健師に相談し、自分にあった対策を考えよう。早めに対策することで医療費も安くなることもあるよ。



資料:KDBシステム